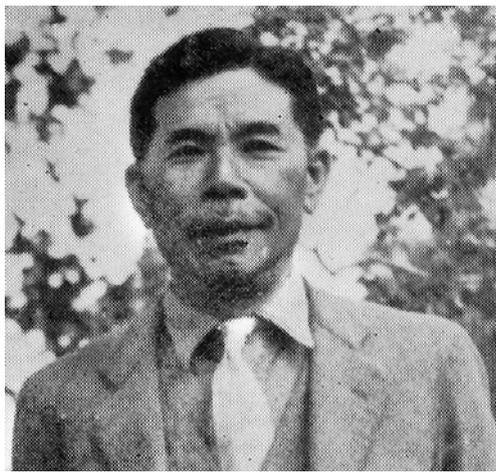


## 戦後の當山正堅について

2014年1月号の「広報おんな」で戦前の當山正堅について紹介しました。今回は戦後の沖繩諮詢会での活躍について紹介したいと思います。

1945年8月15日、米軍政府は石川市(現うるま市)にあった民間人の収容所で、全島住民代表者会議を開きました。この会議により沖繩諮詢会が設置されました。諮詢会の委員は15人とし、委員は農漁部・商工部・衛生部・教育部・社会事業部・労務部・保安部・警務部・法務部・文化部などの専門的な知識や技能を持ち、一部の地域に偏らない代表者で、日本の軍部や帝国主義者との関係を持たない者という条件でした。この沖繩諮詢会に當山正堅もいました。

翌1946年4月には沖繩諮詢会は沖繩民政府となり、軍政副長官により當山は文化部長に指名されました。當山は軍政府文化部部长のハンナ少佐と連携して、文化政策を進めることになりました。



沖繩民政府文化部長時代の當山正堅  
(『當山正堅伝』1959年より)

文化部は「新沖繩建設に対する信念を培う」ことを目標とし、①人類意識による自由意志の活動を強調すること②真理性による宗教を奨励し敬天愛人の念を養うこと③芸術鑑賞の施設をなし趣味の向上を促すことを目指しています。

した。特に、戦時中、戦争を正当化し、信仰の自由を否定した「国家神道」の価値観を払拭させ、「科学的、哲学的根拠をもつ真理性に富む新しい宗教を把握して文化人としての生命を進展」させるために、キリスト教の文化観を取り入れ、日曜礼拝や教会建設などの宗教活動が進められました。

當山は「生存せる同胞三十万が肉親を失い財産の総てを灰燼かいじんに帰し、希望を失い全く虚脱状態にあることを遺憾に思」つていました。この窮状を救うため、クリスチャンでもあった當山は熱心に教会や牧師の世話をしました。当時、當山は軍政府係牧師のポープ大尉やB29連隊付牧師ホップキンスらの援助を受けて、石川市を中心にキリスト教の布教につとめ、キリスト教連盟の初代理事長に選ばれました。

1948年、ホップキンスより、オランダのアムステルダムで開かれる国際キリスト教大会に沖繩からも代表者を出すよう、當山に招請状が送られてきました。當山は単なるキリスト教団の代表としてだけでなく、「第二次世界大戦の終戦地になり、最大の戦禍を身を以て体験した琉球住民の代表として是非派遣すべき」と考え、志喜屋知事や部長会に掛け合いました。そして、牧師で英語も堪能な、沖繩民政府外事課長の比嘉善雄を推薦しました。當山は琉球全同胞の叫びとして「再びかかる悲惨な戦争をこの地上において起こさぬように」という戦争否定の宣言文を起草しましたが、沖繩キリスト教連盟の理事会では「戦争が簡単に否定出来たら、世界の学者(などいらぬ)云々」と當山の決議に対して不要だという意見が出ました。當山の熱心な行動に理事の一部から不満の声があったためでした。そんな中、比嘉は無事にアムステルダムへ到着し、これが戦後沖繩から外国への渡航第一号となりました。